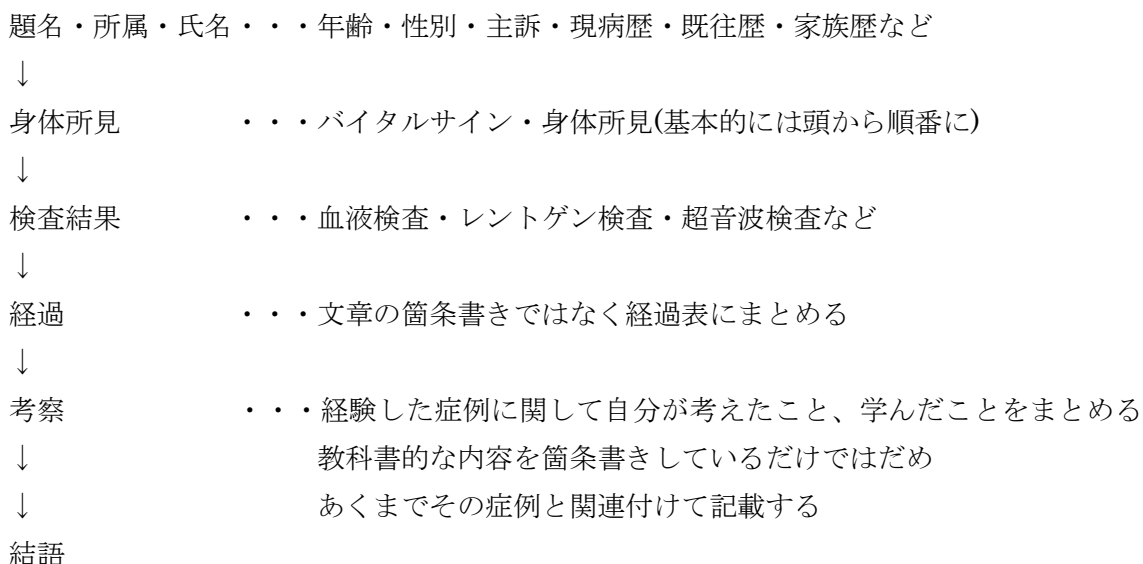


スライド作成の基本



作成上の注意点

- ・口演スライドの準備に王道はない。
- ・演題や抄録の提出期限厳守、当日の発表時間厳守。
- ・効果的な口演スライド準備の基本は、演者の満足ではなく聴衆のニーズにあった構成内容とすることである。
- ・あくまでスライドの基本である症例報告(1例)のスライドについて主に指導する。
症例報告(1例)以外にも、症例報告(複数)、医学研究発表などもある。
- ・学会発表や学会誌への抄録掲載は通常、研究業績とはならない。研究業績として評価されるのは査読を経た原著論文である。
- ・学会発表したままで終えず、論文発表まで見据え、学会発表内容の検討や抄録作成時にも、論文化を常に頭に入れておくことが望ましい。

具体的なスライド作成

- ・スライド1枚の限界行数は、現実的には8行前後と予測される。それ以上行数を増やすと、聴衆はスライド内の文章を文字ではなく字の塊として認識することになり、不十分な情報提供となる可能性が高い。
- ・スライドの色調は、“原色を避け4色以内”が基本だが、ルールが存在するわけではない。しかし原色を含めた5色以上の配色は、医学的内容のスライドとしてはふさわしくない。
- ・口演スライドでは背景色に濃色を使用し、文字やグラフ・表の罫線にライトな色を使用

- するのが原則である。尚、ポスター発表では背景色をライトな色調としたほうがよい。
- ・警告以外の目的で赤色を使用することは避ける。
 - ・行間を 1.5 に広げるなどの工夫をすれば聴衆に余裕を感じさせるスライドになるだろう。
 - ・単位揃える、異常値は別色、なるべく文字は少なく、フォントは大きく。
 - ・画像、動画を駆使。
 - ・画像の異常部に赤丸をアニメーションで示すなどわかりやすい工夫を。
 - ・発表時間内にきちんと終了するのであればスライド枚数は多少多くても良い。
ただし約 6 分間の発表時間ではスライド枚数 10-12 枚くらいが理想
 - ・スライド作成準備を開始するとき、その症例はすでに自分が経験した症例であるはずだから、まずは考察をいくつか記載することから始めるのはオススメ。(考察から作成する)

具体的な口演発表の指導

- ・院内学会本番では、癖、声のトーン、話す速さ、目線をチェックし指摘する。
- ・発表全体が“keep it simple and specific(KISS)”の姿勢で貫かれていることが重要。
発表のポイントを三つに絞る“マジックトライアド”を意識する。発表内容を聴衆の記憶に残すための手法であり、言いたいことが他にあっても、なんとか三つにまとめるようにすることで KISS の理念を実践できる。
- ・1 分で 300 字程度のスピードで読むのが適切。慣れてきたら発表原稿を作らないようにしてみる。
- ・スライド 1 枚にかける時間は 40 秒程度が望ましい。
- ・何よりも時間厳守できるよう、とにかく KISS の理念を貫き、言いたいことを浮き彫りにできるようにする。
- ・極意は「いかに捨てるか、いかに絞るか」である。
- ・質問に対して自分で答えるよう努力するが、どうしてもわからないこと・自分の中で曖昧なことが明らかな場合、また質問に関するデータ採取など調べていないことが明らかな場合は正直に「わかりません」「そこまでは調べていません」と間をおかずに答えるべきである。
- ・明らかに演題の主旨からの外的が外れている指摘に対しては「貴重な御意見ありがとうございます」と答える。

*参考文献

小児科診療 Vol.76 No.4 2013